

令和5年度 第3回久御山町上下水道事業経営審議会 議事要旨

日時	令和5年10月10日(火) 10:00~12:00
場所	久御山町議会棟4階 特別会議室
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 水道事業ビジョン(第2次)(案)について (2) 答申(案)について (3) パブリックコメントの実施について (4) 今後のスケジュールについて 4 閉会
出席者	(委員) 西垣会長、伊藤副会長、松若委員、曾和委員、水野委員、寺井委員、大日方委員 欠席：久保田委員 (事務局) 高山事業環境部長、吉田上下水道課長、内田課長補佐、三上課長補佐、岩上係長、オリジナル設計(株)3名

会議

1 開会

- ※ 会議成立の報告
- ※ 関係人の出席の確認
- ※ 配布資料の確認

2 会長挨拶

- ・1年かけて議論してきた「水道事業ビジョン(第2次)(案)」も、いよいよ取りまとめの段階に入った。
- ・本日は本審議会の答申案、パブリックコメントの実施についても審議を行う。

3 議事

- (1) 水道事業ビジョン(第2次)(案)について
 ー事務局説明ー

会長

- ・資料1の4ページのとおり、老朽管の計画的な更新を示す図が追加され、更新投資の効果として老朽管が減少していくということがわかりやすくなった。

副会長

- ・資料2の85ページで、1段落目に料金改定が必要、2段落目に料金改定を見込んだと記載している中で、3段落目にも料金改定を検討とあり、くどい印象を受ける。

- ・3段落目は、事業のあり方の検討についての記載があれば良いのではないかと。

会長

- ・「水道料金について」の項目なので、「料金改定」と書かないまでも「料金のあり方について」というふうに表現を変えて残してはどうか。

委員

- ・本ビジョン案では、京都府営水道の受水費が久御山町水道事業の経営状況を圧迫しているということが、しっかりと明記できているが、その実態を住民の皆さんが認識し、皆さんと共有できれば良いと思う。

会長

- ・府営水道の建設負担水量の調整について、今後検討していく、適正化について努力を重ねていくということを記載してはどうか。

(2) 答申（案）について

－事務局説明－

会長

- ・「1 はじめに」の箇所に、資材の高騰や賃金の上昇といった市場の状況や変化も加えてはどうか。

委員

- ・今後の長期的な展望について、長期シミュレーションを分析した結果、今後のさらなる効率化や広域化について考えていく必要があるということを、答申に追記した上で、ビジョン本体にも、92、93 ページの今後の検討の項目あたりに記載しておくべきではないか。
- ・資料2の33 ページ、建設負担水量との比較は、一日最大受水量で行うべきではないか。

委員

- ・答申案の内容が軽い印象があり、私が本審議会の中で感じた危機感等が、議員の方々や町長にどこまで伝わるのかという思いがある。
- ・長期シミュレーションでは、企業債残高も非常に早い段階で限界まで上がっているが、現実はまだ厳しいのではないかと思う。

会長

- ・将来の水道事業運営は、より厳しい状況が見込まれるということを、ビジョンの後段、今後の検討の項目あたりに記載するのが良いのではないかと。

委員

- ・本ビジョンのとおり起債充当率80%を前提に試算すると、約30年後に企業債残高が40億円を超え、企業債残高対給水収益比率が500%程度になるという結果になっているが、現時点では、近隣団体から見ても久御山町だけ大きく悪い数値というわけではない。
- ・今後、企業債残高対給水収益比率が200%から500%程度まで上昇するという現状をどう捉えて、将来の危機感として皆さんとどのように共有するのかという話にならざるを得ないと感じる。

事務局

- ・物価高騰も含め、近年目まぐるしく水道事業の経営環境が変化し、今後も京都府や近隣市町との連携も議論していく中で、現在の条件により試算した不確定要素の多い長期シミュレーションを、ビジョンに掲載し使用者に示すのは適切ではないと感じている。
- ・答申には、例えば付帯意見として、長期的には水道事業の経営環境がさらに厳しくなるということを、追記させていただければと考える。
- ・建設負担水量との比較については、乖離状況を示すため、文章には一日平均受水量との比較で書かせていただいている。
- ・令和7年度の料金改定に関して、一度に大きい改定をお願いするのは非常に難しいため、一旦企業債に頼らざるを得ない状況と考えている。
- ・令和12年度の料金改定検討時には、その時点の状況を踏まえた上で、改めて企業債のあり方の検討を行いたいと考えている。

会長

- ・今回の長期シミュレーションは、不確定要素が様々あるため、これをそのまま示すことは、かえって混乱を招くのではないかと感じる。
- ・答申には、付帯意見や「おわりに」の中で、今後、より緊張感をもった事業運営と料金の検討が必要となるといった書き方で記載すれば良いかと思う。
- ・ビジョンには、第7章や第8章の終盤のところで、将来はより厳しい経営環境となる見込みであるというように、ちょっと厳しめの書き方をすれば良いかと思う。

委員

- ・強靱や安全をベースに考えれば、料金値上げは致し方ないが、料金改定の必要性を住民の皆さんに説明する際、この資料では理解できないのではないかと感じている。
- ・水道管の老朽化を放置すればどうなるのかということを、例えば事件事例などを動画や写真を活用して示して、更新投資や料金改定の必要性を分かりやすく説明すべき。

(3) パブリックコメントの実施について

－事務局説明－

委員

- ・令和4年度の料金回収率が大きく下がるのはなぜか。

事務局

- ・受水費の増加や物価高騰の影響により経営状況が悪化しており、料金回収率が下がっている。

委員

- ・住民が実際に見ることができる資料は、概要版という認識で良いか。

事務局

- ・ビジョン本編についても、各施設に閲覧用として配架し、ホームページにも掲載する。
- ・概要版は、配布用という形で各施設に置き、実際に手にとっていただき、見ていただ

きたいと考えている。

委員

- ・ビジョン概要版は、企業用なのか住民用なのか。

事務局

- ・区分はしていない。

委員

- ・住民にとってはわかりにくく、興味がわかないように感じる。

委員

- ・短編動画などで説明すれば、わかりやすいかもしれない。

委員

- ・子どもが理解できる程度のレベルのものも必要ではないか。
- ・本審議会の審議結果を通すためには、住民に同じ方向を向いてもらう必要があり、皆が納得し、致し方ない、ここまで検討してこの結果なのであれば賛成しようと思っただけでなければならず、そのためには住民に理解してもらう工夫が必要である。

事務局

- ・今後、住民説明会やシンポジウムなど、内容を理解いただけるよう、丁寧に説明する場を設ける必要があると考えている。
- ・計画の特性上、どうしても本ビジョンのような形になることはご理解いただきたい。
- ・今後、周知にあたっては、理解しやすい資料の作成を心がけていきたいと考えている。

会長

- ・住民の理解促進については、対応できる範囲で検討いただき、住民説明会では、写真や図などをできる限り活用いただくということで、今回は、努力目標という形としたい。

副会長

- ・従来の行政対応としては、今回のやり方で落ち度はない。
- ・ただ、社会の成熟度を一步一步進めるという意味では、答申案にあるとおり丁寧なコミュニケーションが必要である。
- ・例えばこの段階で住民に対する説明会を行い、それからパブリックコメントを実施するということが試行されても良い時代だと思う。
- ・パブリックコメントでいただいた意見は、できる限りビジョンに取り込むという姿勢で、修正版を作ってくださいようお願いします。

事務局

- ・パブリックコメントでいただいた貴重な意見は、できる限りビジョンに反映していきたいと考えている。
- ・パブリックコメント実施前に審議会を開催することができないため、今回の審議会の意見を踏まえた修正については会長と調整させていただきたい。

委員

- ・パブリックコメントではあまり意見が集まらない印象だが、過去事例での件数はどの程度か。
- ・発信力が弱いかわからないが、例えば動画にして発信したとしても、どれほど皆さ

んがパブリックコメントに気づいて意見を提出するのということとは、また別問題であると感じる。

事務局

- ・ 2年前の下水道ビジョンの際は3件であった。
- ・ 発信力強化のために、下水道ビジョンの時から本町のLINE公式アカウントでの発信も行っているが、その時よりも友達登録の数も増えている。
- ・ 関心を持っていただくことが難しい部分もあるが、是非、頑張って周知をした上で、ご意見をいただけるように努力したい。

会長

- ・ 水道関係のパブリックコメントは、あまり意見が集まらない傾向であるが、できる限り多くの意見が集まるよう工夫していただきたい。

(4) 今後のスケジュールについて

－事務局説明－

4 閉会

※ 閉会の挨拶

事務局

- ・ 経営戦略と水道事業ビジョンの一本化に関して、長きにわたり丁寧に審議していただき、一定の形ができたことに感謝している。
- ・ 水道事業を取り巻く厳しい状況を、使用者の方に伝えて納得していただくということは、我々水道事業者の大きな仕事であると改めて強く感じた。
- ・ また、その過程を経ることで、最終的には「みんなで支える水道」という形になっていくものと考えており、努力していきたい。
- ・ シンポジウムの話もさせていただいたが、前回の料金改定時にはなかった発想で、積極的に住民、企業にもさらに理解を深めていただきたいと考えているため、今後ともご協力、ご指導いただければと考えている。

【散会】

以 上